

【担当教員名】 ○山田まりえ、西野幾子	対象学年	1	対象学科	理学・作業
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	30

【<概要>又は<一般目標：GIO>】

人体骨格標本、分離骨標本を用いて、人体、特に骨格系を立体的に理解する。
 人体の正常な構造と機能を理解するために生体組織の代表例を微細構造的に観察し、それらを理解する。

【<学習目標>又は<行動目標：SBO>】

1. 全身の個々の骨を見分け、身体のどこにどのような方向に位置しているかを説明できる。
2. 骨の全体の形・概観・大きさ・重さ・質感をよく観察する。
3. 骨の区分（体、端、縁、面など）を理解する。
4. 骨の各部分の形（突出物、くぼみ、孔など）を概説できる。
5. 隣接する骨との連結を観察する。
6. 人体の代表的な組織・器官の光学顕微鏡的な微細構造を理解し、その特徴を説明できる。
7. 人体解剖を見学し、献体ならびに人体の構造を概説できる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	解剖学実習 I の概要とオリエンテーション		実習
2	骨学実習 1～15 交連骨格標本、分離骨標本を用いた主たる骨の観察とスケッチ	1,2	〃
～		3,4	〃
16		5	〃
17	組織学実習 1～10 人組織標本、パソコンを用いた顕微鏡標本観察とスケッチ	6	〃
～			〃
26			〃
27	人体解剖見学実習 日本歯科大学新潟歯学部解剖実習の見学	7	〃
28			〃

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のための解剖学	渡辺正仁	廣川書店	2000年 5500円
参考書	線描 骨学実習	千葉正司	考古堂	2001年 3500円
その他の資料	プリントの配布			

【評価方法】 実習態度、出席状況、レポート、スケッチブック、筆記試験の総合評価	【履修上の留意点】 実習では白衣を着用すること。標本の数により全員が同じ順序で実習することは不可能なので、説明をよく聞くこと。スケッチブックと色鉛筆が必要。実習はやり直しが出来ないため、欠席をしないこと。
--	---